

ひとはく通信

ハーモニー

113

Jul.2021

収蔵資料展

ひとはくの鳥類標本を

お見せします！

～古写真が継ぐ地域の景観と記憶～

環境計画研究グループでは、ご家庭のタンスに眠る古い写真（古写真）を収集しています。おおよそ昭和初期～中期の白黒写真が多く、明治期や大正期のとても古いものもたまに見つかります。個人や集合写真など、人物を主としたものが多いですが、地域の景観が写っているものもあり、当時の環境や暮らしを目で見て知ることができます。また、提供者に聞くと撮影場所がわかり、同じ位置で現在の様子を撮影することができます。地域の環境が、おおよそ何年間で、どのように変化したのかも知ることができるのです。

このような古写真を用いて、展覧会をその地域で開催することもあります。古写真を見た地域の方々は、当時の様子を話され、とても盛り上がります。この「記憶」も古写真と一緒に記録することで、より生き生きとした環境資料となります。古代ローマ人の考え方に、「後ろ（過去）を向きながら、背中から前（未来）へ進む」というものがあるそうです。まちの将来、環境の未来は難しく予測できなくとも、これまでの経験の中から、残したい、大切にしたい、継いでいきたいもの考えることが大切です。

赤澤 宏樹（環境計画研究グループ）



昭和 40 年頃の兵庫県佐用町の古写真



同地点の森に戻った現在の様子

トピックス

新入館員 自己紹介



館長補佐
入江 かほり

コロナ禍の収束が見通せない中、新年度が始まりました。ご来館の皆さま、ご協力ありがとうございます。様々な制約がありますが、皆様に楽しんでいただける博物館となるよう、精一杯努めてまいります。



生涯学習課長
摺石 敏之

人生いくつになっても「ワクワクドキドキ」が大切です。まさに、私が今そんな気持ちです。せっかく縁あってお会いしましたので、みなさんとともに世界で注目される博物館を目指しましょう！



社会教育推進員
小林 二城

念願のひとはく勤務。恐竜や猪、カブト虫と同居しての仕事に喜びを感じます。県立高校退職を経ての勤務ですが、生きた化石とならないよう頑張ります。



教育事務推進員
田中 臣光

昭和から平成にかけ、歴博にお世話になりました。当時、ひとはくの開設準備担当の方々が、お忙しくされていたことが思い出されました。愛され行動する博物館のなかで、精一杯動きたいと思います。



事務職員
岩橋 希

自然の楽しさや奥深さを学んだのは、学生時代に参加したひとはくセミナーでした。昆虫の扱いに「ちょっとだけ」慣れた事務職員です。どうぞよろしく願いいたします。